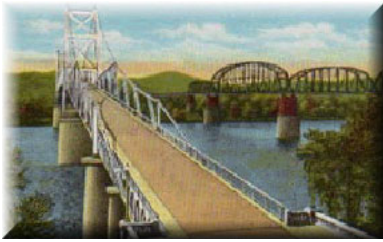


Silver Bridge

1928年竣工

1967年12月15日17:00



アイバーの破壊

46人が死亡、17人が負傷



1971年から2年に1回の定期点検が義務化

聖水大橋(韓国ソウル市)

1979年10月竣工

1994年10月21日7時40分



ゲルバートラス

吊り形式

吊り材の溶接不良



疲労亀裂



吊り材破断

32人が死亡、17人が負傷

走行中に揺れが激しいと苦情が寄せられ、ソウル市当局が事故前日の夜も応急の補修工事を行っていた。

愛岐大橋 (1969年竣工)



(岐阜新聞1999年3月8日朝刊)

はり破損予想以上／愛岐大橋／
1本切れ16本腐食／周辺住民
点検の甘さ指摘の声

ジョギング中の市民がはりの破
損に気づき

1995年に調査

「土木鋼構造診断士・診断士補」

日本鋼構造協会

経済成長の停滞 + 少子高齢化



より一層効率のよい維持管理



高い水準の点検・診断技術を有する技術者



- ・ 使用材料の特性
- ・ 構造物のどの部位にどのような損傷が生じ易いか
- ・ どのように設計・製作されたか
- ・ 正しく理解した上で点検および診断
- ・ 対策立案に関与できる幅広い知識

＜土木鋼構造診断士・同補制度の設立の目的＞

土木鋼構造物の点検技術を含む維持管理全般に係る広い知見を有し、鋼構造部材・部位に発生する様々な損傷・劣化に適切に対応できる技術者を養成する。

診断士：点検計画＋点検の実施＋診断
＋対策の立案

診断士補：点検の実施

制度設立の効果

- ・鋼構造物の点検・診断業務の信頼性向上
- ・技術向上への研鑽の場の提供
- ・維持管理技術者の育成・継続学習体制の確立
- ・鋼構造物の健全性が維持
- ・診断士の存在を含めて鋼構造技術者の存在が世間から重視される

対象構造物

公共性の高い、主として国や都道府県、市区町村、公団などの公益団体・法人あるいはエネルギー・運輸事業者が管理する土木関係の鋼構造物を対象とする。

- ・鋼橋(道路橋、鉄道橋、水管橋等)
- ・水門
- ・水圧鉄管
- ・タンク
- ・杭式港湾構造物(栈橋・ジャケット)
- ・矢板式港湾構造物(護岸矢板・防潮堤)
- など



資格認定体制

土木鋼構造診断士特別委員会
委員長：伊藤 學（東京大学名誉教授）

※資格認定

土木鋼構造診断士専門委員会
委員長：森 猛（法政大学 教授）

※テキスト作成、
講習会・試験
の実行

幹事会／小委員会を専門委員会傘下に設置

資格の取得

(社)日本鋼構造協会が実施する講習会を受講し、試験に合格した後、特別委員会の審査で取得が承認される。

土木鋼構造診断士特別委員会(所属50音順)

委員長	伊藤 學	東京大学名誉教授
幹事	森 猛	法政大学
委員	山本 修司	(財)沿岸技術研究センター
委員	北田 俊行	大阪市立大学
委員	星野 満	(財)海洋架橋・橋梁調査会
委員	仲川 宏之	(社)建設コンサルタンツ協会
委員	山縣 延文	(財)港湾空港建設技術サービスセンター
委員	和泉公比古	首都高速道路株式会社
委員	金子 鉄男	(社)日本橋梁建設協会
委員	市川 篤司	(財)鉄道総合技術研究所
委員	関 雅樹	東海旅客鉄道(株)

委員	三木 千壽	東京工業大学
委員	藤野 陽三	東京大学
委員	林 健一郎	東京都
委員	西川 和廣	国土交通省国土技術政策総合研究所
委員	長井 正嗣	長岡技術科学大学
委員	川崎 博史	(社)日本鉄鋼連盟
委員	角 昌隆	西日本高速道路公団株式会社
委員	中林 正司	阪神高速道路株式会社
委員	伊藤 昭夫	東日本旅客鉄道(株)
委員	加藤 光昭	(社)日本非破壊検査協会(九州工大)
委員	加藤 茂	本州四国連絡高速道路株式会社
委員	計良光一郎	(社)日本鋼構造協会

<講習会日程>

11月21日(月)、22日(火) 東京・発明会館

11月29日(火)、30日(水) 大阪・YMCAホール

12月 5日(月)、6日(火) 東京・発明会館

各会場 定員300名

<試験日程>

12月25日(日) 法政大学富士見校舎

関西大学天六校舎

<登録日程>

2005年度末